

2020年6月5日

## 新型コロナウイルス感染症の影響にともなう研究会の活動について

日本図書館文化史研究会運営委員会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大は、国内外に深刻な影響を及ぼしています。収束の見通しが立たない状況が続き、会員の皆さまもきびしい日常生活を強いられておられることと推察いたします。研究会といたしましても、この状況に鑑み、皆さまがたのご健康維持が重要であること、並びにコロナウイルスの終息に向けて、活動を自粛する必要があると認識しております。ついては、3月7日付で研究会ウェブサイトに掲載しましたように、3月17日に予定していた2019年度第3回例会（アドミュージアム見学会）は、見学予定先が見学会の受け入れを取りやめたこともあり、運営委員会で協議の結果、同例会を中止いたしました。

その後COVID-19の猛威はさらに増し、政府は4月7日に7都府県を対象に緊急事態宣言を発令しました。運営委員会ではかかる情勢に鑑み、例年6～7月頃に行っていた第1回研究例会についても、無期延期、もしくは中止せざるを得ないと判断いたしました。今後の推移をみて活動計画が決定しましたら、研究会のウェブサイト、会報『ニューズレター』でお知らせいたしますので、随時、ご確認いただきますよう、お願いいたします。

また運営委員会では、2020年度研究集会・会員総会を9月19日（土）・20日（日）の両日、広島県立図書館を会場として開催する予定で準備を始めていました。しかし4月16日の政府による緊急事態宣言の対象地域には、東京都、大阪府、京都府をはじめ、13県が含まれています。現時点では、これらの地域からは参加が困難であることなどから、研究集会の開催も予測ができない状況です。ついては、研究集会についても、研究会のウェブサイト、『ニューズレター』でお知らせしますので、随時、アクセスしていただき、ご確認ください。

2回連続の例会中止、加えて研究集会開催見送りは、当研究会としては、誠に残念ではありますが、国内はもとより、世界中でのCOVID-19猛威の現況故、ぜひ、ご理解のうえ、個別にご研究に、お励みくださるよう、お願いいたします。また、研究会の運営について皆さまのご意見をうかがう大切な機会である会員総会を取りやめることは、何としても避けたいところではございますが、現況では如何ともし難い状況です。開催時期の見直しや、規模の縮小などの方策を講じて、例会あるいは研究集会の早期実施を追求したいと考えております。

本研究会の例会だけでなく、他の学協会の行事も軒並み休止となっています。8月に開催予定だった国際図書館連盟（IFLA）大会も中止となりました。加えて、緊急事態宣言により、全国の多くの図書館が休館せざるを得ない状況のなか、貸出のみを実施するなど、様々な工夫をこらし、利用者へのサービスを継続しておられます。

われわれはこれまで経験したことのない試練に直面しているのかもしれませんが。しかし歴史を顧みれば、人類はペスト、天然痘などの疾病を克服してきました。今回のCOVID-19も、ワクチンの試用も進められており、やがて過去の病となると確信します。過去の英知に学び正確な情報に基づき、この困難な状況をともに乗り越えていきたいと願います。今般の事態に対する研究会の当面の対応にご理解をお願い申し上げるとともに、皆様方をはじめ、職場、ご家族、ご友人の方々等のご健康を祈りつつ、再会できる日を心待ちにしております。